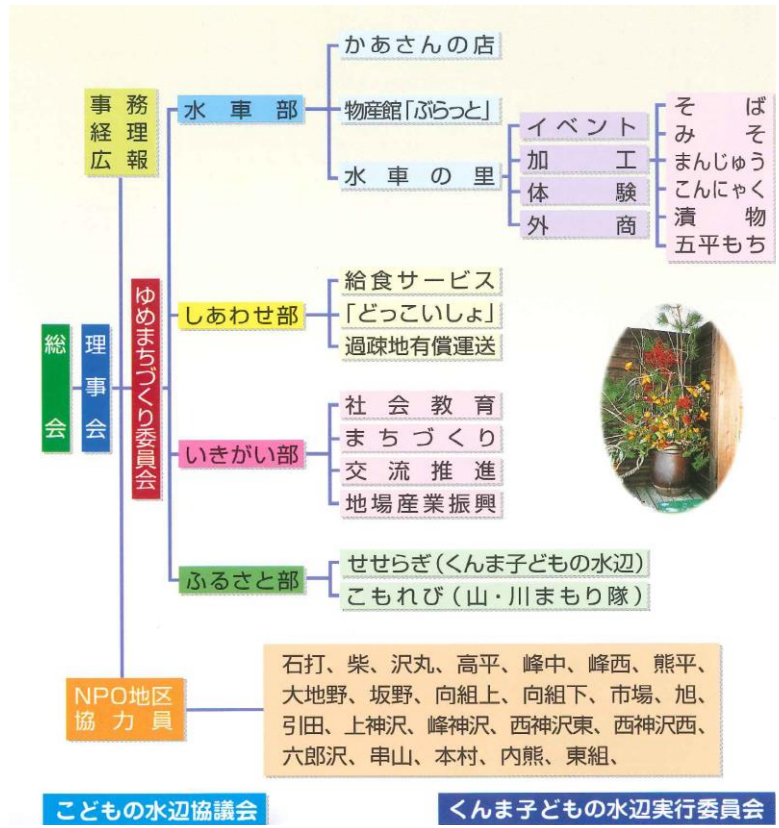


地域名	静岡県浜松市天竜区熊地区 <small>はままつ てんりゅう くま</small>																			
地域運営組織名	NPO 法人 夢未来くんま																			
① 地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・熊地区は、浜松市天竜区の西端に愛知県と接する 32.2k m²の区域で9割近くを森林が占める。浜松駅からは車で約1時間の距離にあり、地区内には23の集落がある。 ・旧熊村は、昭和31年に6町村で合併して二俣町に(2年後に市制施行されて天竜市に)、平成17年に浜松市に編入合併された。林業が盛んな地域であり、昭和30年には2,512人であった人口も産業の低迷とともに減少し、高齢化も進んでいる。 ・道の駅「くんま水車の里」は遠州鉄道バスの終点・車庫があり、拠点内で飲食や日用品・食品等の買い物も可能となっている。 ・女性を中心に検討を進め、昭和61年に306戸全戸参加による「熊地区活性化推進協議会」を設立した。市の協力の下で、補助金や財産区の資金を基に食品加工施設「くんま水車の里」と食事処「くんまかあさんの店」を建設し、女性が中心となって運営を始めた。年間7,8万人が訪れ、収益が得られ始めたことから、法人格の取得を模索し、平成12年にNPO法人格を取得した。 ・水車部の売上が安定して増えてきたことから、月に一度、健康な高齢者のために弁当を作り、集落を回って住民に集まってもらい、一緒に食事をとりながらサービスも提供しているうえ、独居老人のために配食サービスも展開している。 																			
② 面積・人口・世帯数	<ul style="list-style-type: none"> ・面積： 3,220ha ・人口： 348人 ・世帯数： 143世帯 ・高齢化率：56.3% (平成27年国勢調査時点) 																			
③ 中核施設の概要	施設名称	食事処「くんまかあさんの店」																		
	開設時期	昭和63年																		
	設置方法	民設(自己負担及び市の補助金)																		
	設置主体	熊地区地域活性化推進協議会(現NPOの母体)																		
	運営方法	民営																		
	運営主体	NPO 法人 夢未来くんま																		
	売上額	6,600万円(平成27年度)																		
④ 拠点エリアに集積している機能	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="378 1702 644 1749">機能</th> <th data-bbox="651 1702 1137 1749">施設名</th> <th data-bbox="1144 1702 1482 1749">運営主体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="378 1753 644 1848">買い物</td> <td data-bbox="651 1753 1137 1848">物産館「ぶらっと」、 食事処「くんまかあさんの店」</td> <td data-bbox="1144 1753 1482 1848">NPO 法人夢未来くんま</td> </tr> <tr> <td data-bbox="378 1852 644 1899">交通</td> <td data-bbox="651 1852 1137 1899">バス停「くんま水車の里」</td> <td data-bbox="1144 1852 1482 1899">遠州鉄道バス</td> </tr> <tr> <td data-bbox="378 1904 644 1951">産業</td> <td data-bbox="651 1904 1137 1951">食品加工施設「くんま水車の里」</td> <td data-bbox="1144 1904 1482 1951">NPO 法人夢未来くんま</td> </tr> <tr> <td data-bbox="378 1955 644 2002">観光</td> <td data-bbox="651 1955 1137 2002">体験工房「水車の里」</td> <td data-bbox="1144 1955 1482 2002">NPO 法人夢未来くんま</td> </tr> <tr> <td data-bbox="378 2007 644 2054">福祉</td> <td data-bbox="651 2007 1137 2054">デイサービス施設「どっこいしょ」</td> <td data-bbox="1144 2007 1482 2054">NPO 法人夢未来くんま</td> </tr> </tbody> </table>		機能	施設名	運営主体	買い物	物産館「ぶらっと」、 食事処「くんまかあさんの店」	NPO 法人夢未来くんま	交通	バス停「くんま水車の里」	遠州鉄道バス	産業	食品加工施設「くんま水車の里」	NPO 法人夢未来くんま	観光	体験工房「水車の里」	NPO 法人夢未来くんま	福祉	デイサービス施設「どっこいしょ」	NPO 法人夢未来くんま
機能	施設名	運営主体																		
買い物	物産館「ぶらっと」、 食事処「くんまかあさんの店」	NPO 法人夢未来くんま																		
交通	バス停「くんま水車の里」	遠州鉄道バス																		
産業	食品加工施設「くんま水車の里」	NPO 法人夢未来くんま																		
観光	体験工房「水車の里」	NPO 法人夢未来くんま																		
福祉	デイサービス施設「どっこいしょ」	NPO 法人夢未来くんま																		

⑤ 拠点づくりの中心主体

- 生産団体や福祉の団体と連携して事業を展開。
- NPO 法人格の取得時には、積極的に稼いでいくことも重要、という考え方から、組織・事業を分割しようとの意見もあったが、収益で福祉事業を展開する今の形態もとれている。



⑥ 拠点づくりのプロセス

背景、経緯	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 30 年代の農村生活改善運動に始まり、女性を中心に展開されてきた。食品加工所の建設を提案して地元で協議を重ね、昭和 61 年に 306 戸全戸参加による「熊地区活性化推進協議会」を設立した。市の協力の下で、補助金や財産区の資金を基に食品加工施設「くま水車の里」と食事処「くまかあさんの店」を建設した。平成元年には農林水産祭において天皇杯を受賞した。 年間 7,8 万人が訪れ、収益が得られ始めたことから法人格の取得を模索し、平成 12 年に、新たに創設された NPO 法人格を取得することを決めた。 水車部の売上が安定して増えてきたことから、NPO で福祉事業にも着手した。月に一度、健康な高齢者のために弁当を作り、集落を回って住民に集まってもらい、一緒に食事をとりながらサービスも提供しているうえ、独居老人のために配食サービスも展開している。
手法	<ul style="list-style-type: none"> 補助金及び財産区の資金による施設整備 NPO 法人は地域住民が社員。入会金 1,000 円、年会費 100 円とすることで、全員が会員となっている。
サービス・活動	<ul style="list-style-type: none"> 森と木の文化体験及び普及事業（商品開発・販売など） 食文化の伝承体験及び普及事業（郷土料理の提供、商品開発・販売など） 都市との山村の交流に関する事業（新茶まつり、大寒謝祭など） 各種福祉サービス提供事業（生活支援、給食サービスなど） 青少年の健全育成事業（ほたるの学校、棚田ウォークなど） 社会教育の推進事業（体育祭参加支援、ギャラリーくまなど）

	<ul style="list-style-type: none"> ・農山村の保護再生を目的とした環境保全に関する事業（ほたるの里整備など） ・夢づくりのための調査研究事業（まちづくりと組織の充実・強化対策、移住定住のための研究・実施） ・各種情報発信（視察対応、ホームページづくり、ファンクラブの募集など）
拠点までの交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎地有償運送により各戸から拠点までの移動をカバーしている。 ・拠点からは静鉄バスが運行している。
運営	<p>NPO 法人夢未来くんまが地域運営組織として多様な事業を展開している。食事処や物産館には、複数の観光バスが立ち寄ってくれることで収入が多く、また地域住民も、デイサービスの利用のみならず日頃から食事や日用品の買い物の利用に来る。また食品加工施設では日替わりで加工特産品を製造し、物産館には事務所も設置していることで、常に人がいてにぎわいの絶えない場所となっている。</p> <p>多様な施設の集積によって多くの人が集まり、複合的に利用し、経費等の効率化も図れることから、収支のバランスは取れている。</p>
⑦効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の食や仕事、福祉、社会教育の拠点となっており、常に交流が生まれている。年間利用者数は 68,000 人で、月に 2 度ほどのペースで、取材や視察も受け入れている。 ・社会的地位の低かった女性が活躍して楽しく暮らせる環境づくりが定着している。また、女性が都会まで行かずに働ける場も 28 年にわたって創出し続けている。現在、総計 40 人が NPO の活動に従事している。 ・観光客が観光バスで訪れるなど、外のお金が地域に回るとともに、多様な観光客や視察が訪れることで地域が元気で居続けられている。なお、年間売上は 6,500 万円超程度である。 ・地域の課題を解決し、幸せに暮らし続けられる地域をつくり、維持していくために、徐々に活動の幅を広げ、地域にないサービスを提供できている。
⑧課題	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ期に活躍した人材が 70 歳代後半になっているなど高齢化が進んでおり、次の世代への継承に向けた人材確保・育成が重点課題となっている。

⑨写真



■遠州鉄道バス終点「くんま水車の里」



■食事処「くんまかあさんの店」



■水車小屋

出典

・ 中小企業庁「地域活性化 100 選」(平成 26 年度)